

令和2年5月10日

愛知県上海産業情報センター  
林 秀 幸

### 一般調査報告書

## 新型コロナウイルス肺炎の流行に伴う上海市内の状況について(4)

中国の全国人民代表大会（全人代）が5月22日から開催されることが決定されました。全人代は日本の国会に相当し、立法や人事、国民経済や社会発展計画など国の重要事項について決定権を有する国家の最高機関です。毎年、第1四半期（1月～3月）に開催されるのが通例ですが、今年は新型肺炎の影響により開催が延期されていました。

全人代の開催には、全国から三千人規模の代表者が北京に集結することから、開催には中国全土の感染症の流行抑制が必須でした。ここに来て、全人代の開催日が決定されたことは、中国が感染症の影響によるダメージからの復活を図る上での、大きな一歩となりそうです。

一方、中国人民銀行が4月27日に発表した2020年第1四半期（1～3月）の企業家調査では、経済状況について75.5%が「冷え込んでいる」と回答するなど、新型肺炎の深刻な影響も報告されています。そうした中、5月に入り中国では大型連休（労働節）や週末の人出が徐々に戻ってきており、消費の拡大による経済の一日も早い回復が期待されているところです。



5月10日、週末の上海市内・南京東路（筆者撮影）

## 1. これまでの主な経過

2020年

- 4月15日
- ・中国国家衛生健康委員会は、新型コロナの「無症状感染者」が累計6,764人であると発表
  - ・武漢市の仮設病院「雷神山病院」が役割を終え閉鎖

全国：累計確診82,341例(うち海外輸入1,534例)、死亡3,342例 上海：累計確診628例(うち海外289例)、死亡7例

- 4月17日
- ・中国国家統計局は、第1四半期の実質GDP(国内総生産)が前年同期比6.8%減少したと発表
  - ・武漢市は、新型コロナの死者数・感染者数を訂正し、死者1,290人、感染確認者325人を追加

全国：累計確診82,719例(うち海外輸入1,566例)、死亡4,632例 上海：累計確診628例(うち海外289例)、死亡7例

- 4月18日
- ・湖北省政府は、武漢市全域を「低リスク」地域に指定
  - ・広州市は、輸入症例の増加を受け、市内の観光名所・屋内施設を再閉鎖

全国：累計確診82,735例(うち海外輸入1,575例)、死亡4,632例 上海：累計確診635例(うち海外296例)、死亡7例

- 4月26日
- ・中国政府は、非医療用マスクの輸出管理規定を強化

全国：累計確診82,830例(うち海外輸入1,636例)、死亡4,633例 上海：累計確診642例(うち海外303例)、死亡7例

- 4月27日
- ・北京市、上海市で学校が一部再開。北京市では高校3年生、上海市では高3と中3の授業を再開

全国：累計確診82,836例(うち海外輸入1,639例)、死亡4,633例 上海：累計確診644例(うち海外305例)、死亡7例

- 4月29日
- ・第13期全国人民代表大会(全人代)第3回会議が、5月22日から開催されることに決定
  - ・北京市は、国内の「低リスク」地域から来た人に対する14日間の隔離措置を行わないと発表

全国：累計確診82,862例(うち海外輸入1,664例)、死亡4,633例 上海：累計確診647例(うち海外308例)、死亡7例

- 5月6日
- ・上海ディズニーリゾートは、上海ディズニーランドの営業を5月11日から再開すると発表
  - ・武漢市の高校3年生が授業を再開

全国：累計確診82,885例(うち海外輸入1,680例)、死亡4,633例 上海：累計確診657例(うち海外318例)、死亡7例

- 5月7日
- ・黒竜江省政府は、省内全域を「低リスク」地域に指定。

全国：累計確診82,886例(うち海外輸入1,680例)、死亡4,633例 上海：累計確診657例(うち海外318例)、死亡7例

- 5月8日
- ・北京日本人学校は、中学3年生の登校を11日から再開すると決定

全国：累計確診82,887例(うち海外輸入1,681例)、死亡4,633例 上海：累計確診657例(うち海外318例)、死亡7例

- 5月9日
- ・上海市は、「突発的公衆衛生事件に関する応急処置」のレベルを2級から3級に引き下げ
  - ・上海市は、公共の場でのマスクの着用基準、エアコンの使用制限を緩和

全国：累計確診82,901例(うち海外輸入1,683例)、死亡4,633例 上海：累計確診659例(うち海外320例)、死亡7例

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会、上海市衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「全国」には香港、マカオ、台湾は含まれない。

## 2. 上海市内の状況

上海市は、5月9日、「突発的公衆衛生事件に関する応急処置」のレベルを2級から3級に引き下げました。引き続き、海外からの輸入症例による感染者の報告は続いているため、まだ完全には警戒を緩めることはできませんが、学校や経済活動の完全な再開に向けて、徐々に様々な規制が緩和されつつあります。

特にその中でも、マスクの着用義務の緩和は、暑くなるこの季節、市民にとって非常に有難いものでした。まだ公共交通機関や人の密集する場所、せき症状のある人などの着用義務は継続しますが、健康な状態で、人との距離をある程度取れる環境であればマスクの着用義務はなくなりました。

ただ、この3か月余りの間、毎日マスクを当たり前のように着用してきた感覚からすると、マスクを着けずに人前に出ることは、まるで下着を着けずに外出するような気恥しい抵抗感があるのも確かです。そのような心理が働いているのかどうかは不明ですが、市内のマスク着用率は未だ100%に近い状況です。

また、レベルの引き下げに伴い、オフィスビルなどの全体空調の稼働規制も解除されました。5月に入り気温が30度を超えるような日があり、暑さのために企業活動に支障が出るような状況も出始めていましたので、こちらも企業にとっては朗報でした。



週末の地下鉄車内、5月10日16時頃（筆者撮影）

5月1日は中国の労働節にあたり、1日から5日までは大型連休でした。上海市は、冷え込んだ個人消費を刺激するため、「五五購物節」と呼ばれる5月5日の消費イベントに向け大規模な販促イベントを打ち出しました。市内の百貨店や大型ショッピングモールのほか、ネット通販のアリババなどが参加する一大販促キャンペーンで、4日夜の開始から6分で上海エリアの売り上げは1億元（約15億円）を超え、5日14時過ぎには売り上げは100億元を突破しました。新型肺炎の

影響で抑えられていた市民の消費意欲が戻り始めていると言えるのかも知れません。



上海市の「五五購物節」キャンペーン

また、大型連休中は、過剰な人の流れを抑制する策も取られました。上海市は、市内のA級観光地(84カ所)を完全予約制にし、入場者数を定員の3割程度に制限しました。予約はスマートフォンのアプリによる実名登録で行われ、同様の対応は北京などでも行われました。その結果、大型連休の国内旅行者数は前年同時期の約半分となり、消費を刺激し景気を底上げしたいという経済面での思惑と、人の密集状態を作り出すことによる感染再流行への不安、という難しい状況は相変わらず続いています。



5月10日、多くの人出で賑わう上海市・外灘地区（筆者撮影）

国内感染がほぼ収まった中国ですが、例えば飲食業界では客足がまだ戻っておらず、感染拡大前と比べ8割ほどの店舗が営業を再開しているにも関わらず、売り上げは前年同期の2割未満といった報道もあります。世界の国々の感染状況も未だに収束の気配が見えない中、政府は当面、国内の内需拡大によって景気の下支えを図っていく見込みです。

まだまだ先の見えない状況が続きます。今後も引き続き状況を注視していきたいと思います。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。